



## 地域の安全・安心の確保に役立てるため、防犯カメラの設置に継続的に取り組む

### 愛知県遊技業協同組合 「安全・安心なまちづくりを目的とした継続的な防犯カメラ設置支援」事業



愛知県遊技業協同組合  
理事長  
真城貴仁さん

#### 選考理由

愛知県は空き巣や自動車盗難など全国ワースト1位。その汚名返上すべく、長年防犯カメラ設置事業を継続してきた。警察及び自治体、学区、自治会と協議を続けているうちに組合員に防犯意識が高まり、自主防犯パトロール隊が結成された。子どもの見守りなどの活動はさらに広がっている。こうした地域との交流の中で、「遊技施設は夜間でも人がいて明るい場所」と再認識され、緊急時の駆け込み寺「セーフティステーション」として認識が高まった、など総合的に町をサポートしているその姿勢、活動に対して評価が高かった。

社会貢献活動審査委員会  
委員  
脇田直枝氏



#### 県警や自治体などと協議しながら 犯罪予防を目的に防犯カメラを設置

現在、368ホールが加盟する愛知県遊技業協同組合（以下、愛遊協）では、これまで社会貢献活動として、ナゴヤドームへ養護施設の児童を招いてのプロ野球観戦、高齢者介護施設での慰問活動（あいばちプロジェクト）などに取り組んできた。それに加え、2013年からは愛知県内の各所に防犯カメラを寄贈し、地域の安全・安心に貢献する事業を継続して行っている。

ニュースなどを見ても明らかのように、昨今、悪質な盗難や強盗事件が相次いで起きている。安全・安心な街づくりは、どの地域においても重要なテーマの一つとなっている。愛知県は住宅を対象にした空き巣などの侵入盗や自動車盗が長期間にわたって全国ワースト1であり、さらに児童を対象とした犯罪事案も多発していることから、愛遊協では犯罪予防を目的として、防犯カメラの設置に取り組むことにした。

設置にあたっては、毎年、愛遊協と愛知県警が情報交換を実施し、県内の犯罪発生状況などから設置を促進すべき地域を選定し、その後、当該地域の自治体、学区、自治会などと協議しながら設置場所を決定している。これまで、20市4町の自治会、学区など48地区に計206台の防犯カメラを寄贈し、設置費用は計約4,200万円となっている。なお、防犯カメラの設置と合わせて、「防犯カメラ設置中」などの防犯プレートで周知することで犯罪の予防・抑止効果をあげるとともに、地域住民に安心感を与えている。

#### 防犯カメラの設置をきっかけに 自主的な防犯意識や活動が高まる

昨年度、愛遊協では8市3町（15地区）に計40台の防犯カメラを寄贈した。設置費用は約800万円となっている。その一つとなった豊橋市の牟呂校区自治会には3台の防犯カメラが寄贈された。2023年2月20日に牟呂校区市民館で行われた贈呈式では、愛遊協専務理事が目録を手渡した後、「遊技業は地域の安全と平穏があってこそ成り立つ。地域の安全・安心のために貢献できることは組合の喜びです」と挨拶した。それに対し、自治会長からは、「牟呂校区は人口も面積も大きく、犯罪発生率も高くなって困っていた。防犯カメラの設置は心強い」と感謝の言葉が述べられた。また、贈呈式に同席した豊橋署署長からは、「防犯カメラの設置や防犯プレートによる周知は犯罪抑止の大きな力になっている。これからも協力をお願いしたい」という話があった。

なお、この寄贈に合わせ、同校区では市の補助金を活用して別の防犯カメラ2台を追加で購入した。このように、この寄贈が地域での防犯意識の高まりにつながっているほか、地域において防犯パトロール組織が結成されたり、子どもの見守り活動が活発になったりするなど、地域の自主的な防犯活動を促進するきっかけともなっている。さらに、愛遊協では贈呈式などに出席した機会をとらえ、遊技施設は夜遅くまで明るく、人も多い場所なので、子どもや女性が緊急時に駆け込めるセーフティステーションとしても活用できることなどを紹介している。



防犯カメラの贈呈式



設置された防犯カメラ